

かずさ

日本ボーイスカウト
上総地区

33号

発行日
2017.2.1

発行：関口 陽市（地区委員長） 編集：スカウト拡充委員会（委員長 山本 勲）

第20回記念千葉県キャンポリー

千葉県連盟主催の「第20回記念千葉県キャンポリー」が、昨年8月9日から14日まで富津市で開催。千葉全域からスカウトと指導者合わせて1,030人が参加しました。スカウトたちは、「Get! パトローリング」をテーマに真夏の5泊6日を有意義に過ごしました。上総地区からは、合同隊3隊を編成して参加しました。

上総第1隊

◇第1隊 隊長

2016年8月14日、私は上総地区第1隊の隊長として第20回記念千葉県キャンポリー（以下、20MCCの略称で表示）すべてのプログラムを終了し帰団しました。

9日より14日までの会期を終え、スカウト、リーダー共にほどよく焦っていました。

天候にも恵まれ、設営、開会式、大集会、鋸山ハイキング、富津岬ハイキング、閉会式、撤営まで滞りなく進めることが出来ました。

初日が1番暑かったのですが、二日目からは風もあり、何とか過ごすことが出来ました。全体に夜は涼しく過ごしやすかったのは幸いでした。会期中、体調を崩しかけたスカウトもありましたが、皆、怪我もなく元気に退場、帰宅することが出来たことは大きな成果の一つだと考えます。

会期中の千葉日報にふくろう班班長の高梨君のインタビューが掲載され、さらに、参加班の為に用意されたスキルチャレンジプログラム「コンパス方位角チャレンジ」でふくろう班が優秀



班として表彰されるなどふくろう班フイーバーがあり、第1団の隊長としても大変嬉しい思い出になりました。

今大会のテーマは「ゲット!パトローリング」です。班活動のあり方を再認識するのに良い機会となりました。隊運営、班活動には上級班長の存在が大きい事も痛感しました。1・6団混成の隊でしたが宮崎上級班長がいることで隊がだんだんまとまっていきました。班も日を追って目的を持って自発的に活動していくようになっていきました。

やはり上級班長の存在は重要だと気づかされたことも大きな収穫でした。

この大会で生涯忘れないだろう思い出が出来ました。最後のセレモニーも終わり国旗ポールを格納してさあ帰るぞというとき、班長に呼び止められました。何かと思っていたら参加スカウト全員が隊長と上級班長の前に整列。

声をそろえて「有難うございました」と一礼してくれたのです。なんて素直なスカウト達だと、胸が熱くなりました。この1年。この時のためにあったと感じられた事が私にとって1番の収穫でした。

今大会、市原第6団のリーダーの方々、第1団のリーダーの方々には大変御世話になりました。無事に今大会を過ごせましたのも参加リーダーの方々のご尽力あつてのことと感謝しています。

また、今大会参加にあたり、市原第1団、第6団の皆様と上総地区関係各位の皆様には本当に御世話になりました。足かけ1年に渡り、多大なるご支援とご指導をいただき感謝します。有難うございました。

これからも1・6団兄弟団として交流して活動を盛り上げていきたいと思っています。スカウト・リーダー共に思い

出に残る、2016年夏でした。

(市原第1団 倉知 篤彦)



◇ワシ班 班長

僕は20MCCに参加し、「身も心も成長したかな?」と自分でも感じられるようになりました。けれど、この20MCCに参加するまでは とても緊張して、こんな僕に班長が務まるのか、とても不安でした。しかし、班のみんなが協力してくれたり、上級班長やリーダー達が助言してくれたので、とても楽しいキャンプになりました。

その中でも一番印象に残っているのが上総第一隊のみんなに登った鋸山です。階段がとてもキツく急で登るのに骨が折れましたが、やっとの思いでたどり着いた山頂から見た景色はとても爽快で心に残る景色でした。

僕はこの大会に参加してとても良い経験ができました。またこのような大会があったら参加したいと思います。

(市原第6団 武内 祐樹)

◇ふくろう班 班長

僕がこのキャンプで一番学んだことは、初めて上級班長がいる中でキャンプをした事です。いままでベンチャースカウトがボーイ隊の活動に参加してもらったことがなかったので、このキャンプで「上級班長」を知りました。

一番心に残ったことは、上級班長の指導の下、時間厳守しようとしたけど守れなかったことです。一日目、日程より数十分遅れてしまい、上級班長、次長と話し合い対策を立てました。しかし、二日目も遅れてしまいその日の班長会議で上級班長から「班長がしっかり指示を出して分担しないと効率が悪い」言われ、そのことに気をつけて三日目の行動に取り組むと二日目より時間の遅れが少なくなり、五日目には日程通りに班行動することが出来るようになりました。

現在、僕はベンチャーに上進し上級班長に任命されました。20MCCの上級班長を手本にこれからも頑張っていこうと思っています。

(市原第1団 高梨 純也)

上総第2隊

◇第2隊 隊長

我が上総第2隊は、市原第3団5人、5団9人、7団5人、上級班長1人、隊付4人の合同隊で構成され、20MCCに臨んだ。結隊後3ヶ月で中期の野営に耐え得る、技能を習得し、各役務を習熟していく事は、各々苦勞した点だった。事前訓練では、出席率が低く当面の課題は出席率を上げる事でした。1年間で班長としての責任感も備えられ、班長の成長は著しいものがあつた。

普段少ない人数での活動により、班対抗の経験がないスカウトもいた。合同隊により、大勢で活動することの楽しさを経験し、次も大勢で活動したいとスカウトニーズも挙がっている。我が隊では楽しく・魅力あるボーイスカウト活動に一步近づき、まだまだ課題はあるものの成功だったと感じる。

このキャンポリーの運営に関わって頂いた全ての方に感謝して、次の世代につなげていけるように、これからも活動を続けていきたいと考えている。

(市原第5団 石垣 千草)

◇オットセイ班 班長

1日目は、設営でした。1日目は風が強くて作った食堂フライも風で飛ばされて、皆で直すというループでした。大変だったけどすごく楽しかったです。

2日目からは、皆慣れてきて、楽しくキャンプが出来ました。楽しかったです。初めての長期キャンプで班長をして、不安な事もあつたけど良い思い出が出来ました。

(市原第3団 田口 未悠)



◇ホワイトタイガー班 班長

20MCCは、僕が経験した中で一番大きな大会で、大会初日は何も起こらず無事に終わるの心配でした。

僕は、受験生という事もあり、塾で夕方から夜の大半が大会に参加できませんでしたが、案の定、立かまどが崩壊して夕食が潰れると言った事が起こり、大変だったそうです。その時僕は塾で居なかったのですが、そんな事故があつても班員が力を合わせて行動したと知りとても頼もしく思いました。改めて、班の成長を目の当たりにし、とても感動しました。寝食を共にする事で普段は見られない一面を見つけ、補う。今大会の、ホワイトタイガー班の最大の成果だったと思います。

今後も、班員と共にスカウト活動を頑張っていきたいと思います。

(市原第5団 志村 耕佑)

◇バッファロー班 班長

今回、市原第3団、5団、7団で作った合同隊で、20MCCに参加しました。

20MCCは5泊6日で、自分が今までやってきたキャンプの中で一番長いので、班長としてこの長い期間ちゃんとやっていけるかとても不安でした。

ですが、次長や隊付、リーダー達がサポートしてくれたので、この5泊6日の間、とても楽しく過ごせました。

新しい友達も出来、班員の成長も見られたので、自分としては大満足です。また合同隊を作ってキャンプをする機会を作ってもらいたいと思いました。

(市原第7団 宮下 雅行)

上総第3隊

◇第3隊 隊長

20MCCは、大変な暑さが続いた困難な活動となりました。連日の35度を超える猛暑の中での活動を行い、熱中症のスカウトが出た際には、本部の救護班に大変お世話になりました。何とか生活も落ち着いてきた3日目には、全スカウトが集まる大集會が開催され、地下アイドルグループ「東京チアチアパーティー」によるパフォーマンスが行われ、スカウト達も暑さを忘れ、楽しいひと時を過ごしました。皆で大きな声を出して、一体感が表れてきたのはこの後からでした。一日の活動の最後であるGB会議では、その

日の反省と評価、翌日の活動の確認を行います。4日目は、「長距離ハイキングでプールを目指す」スカウトが最も楽しみにしていたプログラムです。すると大集会後のグリーンバー会議でスカウトから、時間に遅れが出ないようにするため、スカウト全員で助言しあう提案がなされ、翌日の朝食、セレモニー含め、出発まで定刻前までに準備を終わらせていました。活動への取り組みが、気持ちから変わった契機となりました。班長からの指示もよく出ており、それを上級班長である渡辺さんが良くフォローしていました。最終日はキャンプ地を後にする撤営作業でした。結果として、キャンプ場を出発するのが全隊の中で最後となってしまい、恥ずかしさと猛反省でした。各スカウトには、この6日間の経験を糧にし、自隊での活躍を祈ります。さらに関係者の方々には、今後のご支援をよろしくお願いたします。

(茂原第2団 高橋 知顕)

◇ホワイトベア班 班長

私たちホワイトベア班はキャンプが始まったときは、自分も班員もまず何をすればいいのかをはっきりとさせられず、設営は上班や副長に助けられてばかりでした。そこで二日目からは予

定をしっかりと守ることにしようと私は考え、かなり班員に対しては厳しくしていました。でもそれがもともと班員との距離が遠くなってしまふことがありました。三日目のハイキングでは班員が弁当を忘れたのを報告しないということがあります、そこで自分はいままでのやり方では、班員は離れてしまふだけだと思いました。その日の班長会議で、次の日からは班員に積極的に話しかけたり、班員と仲良くなることを目指しました。そうすると次の日からは、全員打ち解けて話すことが出来るようになり指示も通りやすくなりました。

班がまとまって動くには、予定をしっかりと守ることも大切です。ですが、それだけを見て厳しくしているだけではいけないと思います。班員と打ち解け会って話せる班長、そんな風に班長がなれば予定が守れるように班も動け、班の雰囲気も良くなります。

私は「班長が変われば班も変わる」この言葉の意味が、今回のキャンパーでよくわかったと思います。

(東金第1団 佐々木 凜太郎)

◇ライオン班 班長

私は最初とても心配でした。4月に入隊した小学6年生はまだ、経験が少



ないと思ったからです。ハイキングもしていない、キャンプも1度だけ、訓練はしたけれど、それを確実に行動出来るかは難しい所です。

それに私も班長として6年生達をしっかりとみれるか不安でした。

20MCC 初日、設営中に1人気持ちが悪くと言ってきました。自分から言いに来て、早めに休ませられたのは良かったのですが3人になってしまったので大変でした。

それから、たくさん苦勞したこともあります。キャンプ中の活動はとても楽しめたので、良かったです。班員からも「大変だったけど楽しかった」との声も聞けたので嬉しかったです。

この20MCCは私にとっても、班員にとっても大きな経験だと思うので活かしていきたいし、活かして欲しいと思っています。

(茂原第2団 小泉 公輝)

第12回上総地区ビーバーまつり

11月6日爽やかな秋晴れの中、第12回上総地区ビーバーまつりが開催されました。

初めて会うスカウト同士でも、同じ制服を着ていると仲間意識が芽生えるのでしょうか、会場には開会セレモニーの前から元気な笑い声や話し声が飛び交います。

セレモニー後のアイスブレイキングでは、今日のタイトル「いいものがそう みつけよう～あきのみ・どうぶつ・おともだち～」にちなんだストーリーと♪線路は続くよ どこまでも♪の歌に合わせて参加者120人の連結列車が走ります。

その後は、スカウトが8つのグループに分かれて探検ハイキングに出発して行きました。

今日のためにコース内に準備した



ゲームは5つ、木立を利用して張ったロープのくもの巣くぐりや橋渡り、記憶ゲームに宝探し、神社での十二

支探しとミニ富士登山です。スカウトゲームはスカウト達にとっては楽しい遊びであり、自然に身体を動か



し、達成感とともに観察力や考える力を育てていきます。

午後のプログラムでは、4月の熊本地震、10月の鳥取地震を振り返り「こんなとき どうする？」の劇と共に災害時の行動について考えました。

秋の自然の中で、楽しさとたくさん学びがある一日となりました。



第18回上総地区くまスカウト集会 (10月8～9日)

上総地区くま集会に参加し、僕は三組で組長になりました。初めはテント設営。素材が違うペグというものが驚きました。竹ぼっくりや小刀で竹スプーンを作ることもしました。竹を切っているうちに疲れ果ててしまいました。夜は雨だったので、キャンドルナイトでスタンプをしました。二日目はレインコートを着てハイキングしました。印象に残ったのは小刀体験です。苦労したので次はうまく使いこなせるようになります。この経験は忘れられないものとなりそうです。

(市原第1団 中村 俊哉)



まず、組を決めて組長を決めました。

組長を決める時、だれも手をあげなかった。ぼくが手をあげました。組の名前を決めるのは、けっこう大変でした。みんななっとくいかず、かなり時間がかかりました。キャンドルファイヤーの時のスタンプ決めは、大変でした。あまり時間がなかった。夕食のカレー作りの時に決めました。題名は、スマホタロウ(現代のモモタロウ)です。次の日、ハイキングに行きました。山道を通って行きました。みぞみたいな所があ



りツルツルすべりました。なかなか上がることができませんでした。ハイキングが終わるころには足がクタクタでした。組長になって大変だったことは、沢山あります。だけど、仲間と助け合いながら活動することがすごく大切だと思いました。今回は、くまだけだったので5団にもどいたら、みんなでまとまって行動することについて、もう一度よく考えてみようと思います。

(市原第5団 高橋 颯人)

くま集会では、初めて出会った組のみなどと、すぐに仲良くなれたので、うれしかったです。

ぼくは、組長として、組をまとめるのは大変だったけど、しっかり組のみなどをまとめられたのでよかったです。

いろいろな活動は、どれも楽しかったです。特に、ハイキングが楽しかったです。とても疲れたけど、たくさんゲームができたし、ゴールをした時に、とても達成感を感じることができました。

最後は、優勝できて、とてもうれしかったです。充実した二日間でした。

(市原第6団 千代 翼)



各団からの便り

市原第1団

我が団の取り組み

市原第1団では新規スカウトの獲得、及び各隊の連携をはかる為、ホームページを活用しています。

トップページは総合案内、第1団の連絡先とボーイスカウトの方向性への取り組み、簡単な「ボーイスカウト運動」の紹介をしています。また、ボースカウト体験会などの近々の催



しを案内します。完成した募集チラシもここから閲覧できるようにしています。結構、このページをご覧になってメールでのお問い合わせが有ります。

2ページ目は団の略歴のご紹介。もう少し広げて65年の歴史をご紹介しても良いかなと思います。

3ページ目のスケジュールのページが、団の取り組みの一つです。

横軸に団、各隊の枠を取り、縦軸に実施日時の近い月別の活動予定を並べています。これにより同日、または近日の団及びビーバーからローバー隊までの時系列を確認でき、各隊相互に連携できればと考えています。各活動予定は毎月の団委員会・団会議に基づき掲載していきます。

最近、ローバー隊の活動が活気を持ち始めました。ローバー隊の枠も



必要になってくるのではと嬉しく感じています。

リニューアルを重ねて、この形になってきましたが、さらにボーイスカウトの魅力を伝えられるよう、また、各隊の活動の活性化、新規スカウトの獲得への一助になるよう工夫をしていきたいと考えます。

市原第3団

最近の地域連携活動

市原第3団で今年度実施した地域活動を、季節順に示します。

①6月にはふるさと苑を訪問しました。ふるさと苑は当団の野営場の近くにある老人ホームで、毎年カブ隊が中心になって歌やゲームなどを披露し、お年寄りに楽しんでもらっています。

②7月には国分寺台西小学校の親子盆踊り大会で、焼きそば等を作って提供しました。「ボーイスカウトの



焼きそばは安くておいしい。」と評判で、毎年長い列ができて早々と完売します。焼き役は熱くて大変ですが、スカウト達も販売を手伝ってくれます。



③9月は毎年スカウトの日にクリーンアップ作戦を行います。今年度は上進式とカブ隊入隊式の後、市原市役所と中央公園周辺のボランティア清掃を行いました。

④11月には今回初めて国分寺台小



学校のバザーで焼き芋とストラックアウトのお手伝いをしました。特にストラックアウトではベンチャースカウトが中心になってゲームを運営し、頼もしいお兄さん役をやってくれました。

⑤12月は恒例のユニセフ募金を行います。事前にユニセフの勉強会をして、寒い中ですがスカウト達は大声で頑張ってくれます。今年度は昨年度に続きアリオ市原で行います。

制服での活動を地域の人に見ていただき、一人でもスカウトが入ってくれればと思っています。

市原第5団

ピザ釜を前に、叙勲のお祝い

市原第5団では8月20日、星野伊久雄初代ボーイ隊長の叙勲のお祝い（地方自治功勞として旭日小綬章受章）を山内団委員長宅の工場内に完成した特大のピザ釜を前に、団関係者約25名が集い開催しました。また当日は、佐久間副団委員長から地元で捕獲したワイン付けのイノシシ肉の差入れもあり、大いに盛り上がり



ました。

本団は、市原南ライオンズクラブの方々が将来の地域のリーダーを育成するために、先ず育成会を立ち上げ、上総地区の役員の方々の指導や地域の教育界の支援の下に昭和47年10月にボーイ隊のみでスタートしました。星野初代ボーイ隊長によりますと、当時は3つの誓いと12のおきてだけを覚え、スカウト活動の知識も経験もない中で、隊長や副長は不安いっぱいでのスタートでしたが、たか班・わし班・コブラ班のスカウト達は、班長のリーダーシップのもとに日に日に成長していったそうです。現在も団委員や隊指導者として活躍している教え子スカウトを前に能弁に話してくれました。特に発団



（↑昭和47・8年頃の隊集會にて）

の翌年に野田市清水公園で開催された、千葉県キャンポリーでのキャンプファイアーで披露した牛久八坂祭りの太鼓は最高のパフォーマンスだったと、鼻高々でした。

今回の、祝賀会は山内団委員長が強力に進めている団内の融和に大いに役立ちました。

市原第6団

JOTA/JOTI 特別隊集會

カブスカウト隊は、10月15日に千葉県青少年女性会館で、JOTI（ジャンボリー・オン・ジ・インターネット）に参加しました。JOTIとは、世界スカウト機構が主催する国際行事で、国内および外国のスカウトとインターネットを通じて交流し、お互いを理解しあい、知識と友情を深め



ることを目的としています。同時にJOTA（アマチュア無線による交流）も開催されています。

会場では、まず、毎年交流している台湾のボーイスカウト隊と、漢字や写真をみせあったりしながら、スカイプの画面を通じて、交流しました。その後、朝食中のオランダのローバースカウトや、熊本19団の

ベンチャースカウトとも話をしました。熊本のスカウトの地震の時の話は、カブスカウトたちは、とても真剣な面持ちで聞いていました。

その後、県連盟の指導者の方々から、アマチュア無線の話をうかがい、モールス信号や、無線機を使う体験をしました。インターネットを使って、スカウトが交流する掲示板に、自己紹介を書き込む体験もしました。普段できない体験がいろいろとできて、スカウトたちの興味の対象も広がったように思います。また来年も参加したいという声も多く、これからもこのような交流活動を継続して行いたいです。（カブスカウト隊）

市原第7団

イカダに乗って出航！

8月初旬、市原7団カブスカウト隊は大網白里市にて3泊4日の夏期舎営を行いました。今年の夏期舎営のメインイベントは当団カブ隊の歴史ある行事である「イカダ下り」です。それまでの組集會・隊集會にて「帆の作成」「ロープワークの特訓」「竹

の切り出し」など準備を行い、舎営1日目には一人一本ずつオールの作成も行いました。イカダ下り当日はボーイ隊から先輩のお手伝いやビーバー隊の後輩も見守る中、組毎に時間がかかりながらもイカダを自分達で作成し昼食をとった後、各組出航。





砂地から押し出され水に浮いた瞬間、乗っているスカウト達や見ている保護者から「うわーっ」と声が上



がりました。その後、乗組員たちは声を合わせ、自分が作ったオールで一心不乱に漕いでいきます。ゴール

する頃にはヘトヘトで漕げなくなり、デンリーダーにイカダを押ししてもらった状態になっていましたがなんとかゴール。惜しみながらもイカダを解体し、団から差し入れて頂いたアイスを食べ無事にイカダ下り終了となりました。準備期間が長くかかりましたが、参加したスカウト達にはそれに見合った良い体験をしてもらえたと感じられる夏期舎営となりました。

茂原第2団 茂原第2団ビーバー隊です

ビーバー隊の夏のデイキャンプは、「いちはらクオードの森」で行いました。どんより曇って肌寒いくらいの日だったので、当初の予定の水遊びは止めにして、ネイチャービンゴでもやろうかな、なんて隊長の懸念は吹き飛ばくらいスカウトたちは元気元気！

朝から着てきたんだよ、とさっそく水着姿になって水鉄砲遊びが始まりました。

いちはらクオードの森は、キャンプ場の中に小さな小川が流れていて、

スカウトたちは川に入って水鉄砲合戦です。

今回のデイキャンプのメインイベントは、段ボールピザ作りです。段ボールにアルミホイルを貼り付けて作った、隊長特製のピザ窯でピザを焼いて食べます。

まずはピザ生地を伸ばして、その上にピザソースを塗ります。トッピングは玉ねぎ、ピーマン、パプリカ、しめじ、サラミとバラエティ豊か。一番人気だったのはテリヤキ味のミートボールでした。チーズもたっ

ぷり乗せて、段ボールピザ窯で焼いていただきます～！隊長特製の野菜スープと一緒にのおなかいっぱい食べました。

午後からは水鉄砲でもうひと遊びして、恒例のスイカ割り。今年はヒット続出で早々に割れたので、みんな美味しくいただきました。とってもあま～い、おいしいスイカでした。夏休み最後の楽しい思い出できたかな？



東金第1団 山武市と東金市での募金活動

東金第1団の活動地域である山武市と東金市における市の行事に参加しました。

10月18日は、松尾交流センターで開催された「山武市健康福祉まつり」にカブ隊とボーイ隊が参加しました。主に赤い羽根共同募金活動への奉仕で、スカウトの元気な呼びか



けの声と、女性副長による山武市キャラクター“SUN ムシくん”のかわいい動作で集まった貴重な募金は山武市に寄託しました。

また、11月27日は「東金市産業祭」にボーイスカウト東金第1団として「木製キーホルダーづくり」のクラブコーナーと、種なしゆずの販売の

ブース、ユニセフ募金ではビーバー隊とベンチャー隊が奉仕しました。天候があまり良くなかったので例年より来場人数が少なかった中、短い時間でしたが、ビーバースカウトのかわいい呼びかけの声に快く募金にご協力いただきました。

募集説明会は1月に年1回の開催ですが、市民が集まる所でチラシも



配布し少しでもボーイスカウト活動を知っていただく機会にしています。また、カブ隊隊長が活動中に「FMさんむ」の取材に応じ活動をPRしたり、教育委員会へ依頼のほかにも指導者に募集パンフレットの配布に協力いただいたりして、新入団者獲得に努めています。

大網白里第1団 活動を楽しんでいます！

小さな団ですが、他の団との交流や体験者も加わり、こんな活動を楽しみました。

ビーバー隊

東京連盟の港第1団のスカウトを招き、蛍のえさの“カワニナ”を取って放流、流しソーメンをおいしく食べました。



カブ隊

夏キャンプでキャンドルサービス、



ハイキング、そしてペットボトルでロケットを作り、小さな宇宙力に夢



を託しました。

ボーイ隊

今年度の夏キャンプは“谷川岳登山”“カヌー”釣り“そして湖上打ち上げ花火の見学と盛りだくさんで楽しさ満載でした。



団

他団の指導者の協力を得て、公園にモンキーブリッジを作り、小学生対象に楽しんでもらいました。

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内にはボーイスカウトの109の団があり、6,407人（平成28年9月現在）が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つです。上総地区には8個の団が所属しています。

団名	活動地域	入団等問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井周辺	田中 秀近	0436-21-3840
市原第3団	市原市国分寺台周辺	牛田 智子	0436-36-7747
市原第5団	市原市牛久周辺	山内 憲章	0436-92-0105
市原第6団	市原市辰巳台 ちはら台周辺	齋藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎周辺	菊池 由紀	0436-62-4004
茂原第2団	茂原市、長生郡周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡周辺	山下 すみ江	0479-80-8551
大網白里第1団	大網白里市周辺	奥貫 誠	0475-72-7988